

1. 研究課題名：
母児 POPs 曝露量の質問票及び遺伝要因
からの推定に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：
森 千里（千葉大学予防医学センター・
千葉大学大学院医学研究院）



3. 研究実施期間：
平成 25 年度～平成 27 年度

4. 研究の趣旨・概要

本研究では大規模コホート研究における化学物質曝露調査を最小のコストで最大の結果を得られるシステムとして構築することを目的とする。

方法として、①コホート調査における母体血検体および母親の児の臍帯検体中の PCB 濃度を測定し、さらに母親の質問票から寄与因子の評価をすることで血中 PCB 濃度の予測モデルと母児 POPs 曝露量推定システムを構築する。②全ゲノム関連解析を実施し、遺伝要因からの POPs 高曝露群検出方法を開発する。

これらの結果から母親や胎児の一部の PCB 等の POPs 曝露状況に関する情報を国民に発表することは大きな意味がある。また環境汚染物質の曝露影響に関する健康リスク評価や環境政策に有用となる。

5. 研究項目及び実施体制

①エコチル調査における母親・胎児の PCB 曝露量測定と母親の質問票からの母親の質問票からの母親及び胎児の POPs 曝露量推定方法の開発に関する研究

6. 研究のイメージ

母児 POPs 曝露量の質問票及び遺伝要因からの推定に関する研究

エコチル調査における母親・胎児の PCB 曝露量測定と母親の質問票からの母親及び胎児の POPs 曝露量推定方法の開発に関する研究

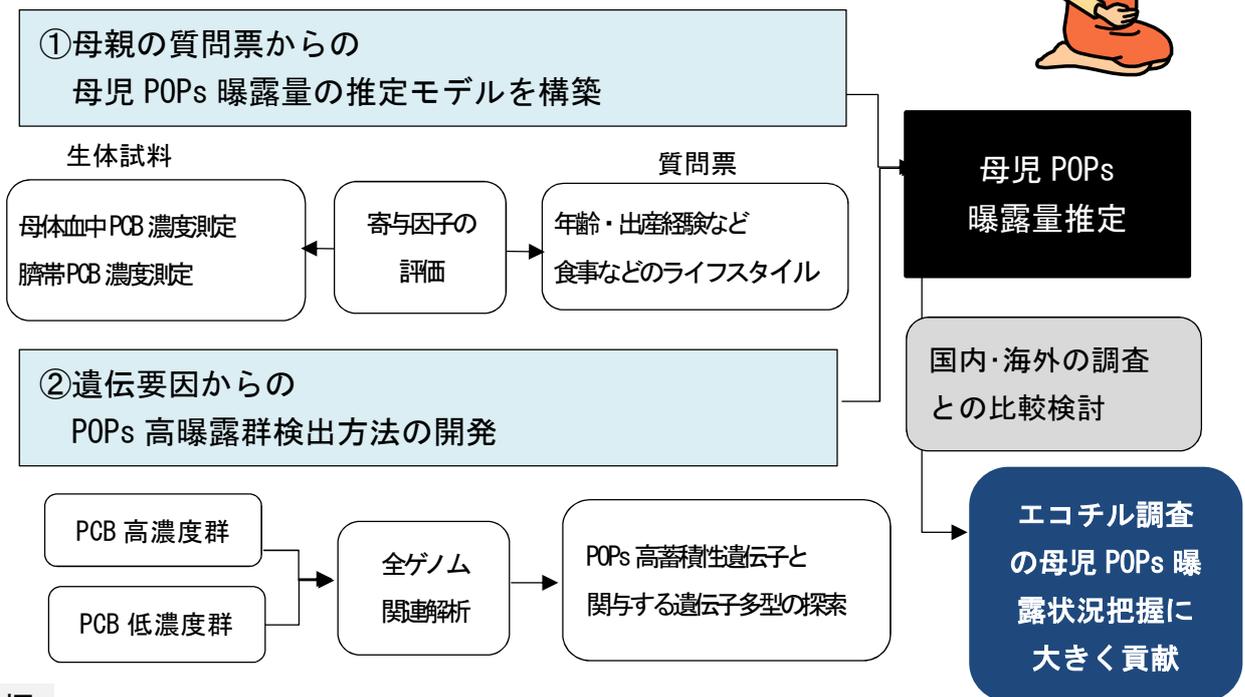
POPs (Persistent Organic Pollutants=残留性有機汚染物質)
エコチル調査 (環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査)

1. 背景と目的

エコチル調査における化学物質曝露調査には膨大なコストが必要であるため
できるだけコストをかけず成果を挙げる研究方法を開発する。



2. 具体的な研究内容



最終目標

エコチル調査の母親の質問票からの母親及び胎児の POPs 曝露量推定システムの開発
遺伝要因からの POPs 高曝露群検出方法の開発